



共同通信



2009年3月16日 151(361号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 51 『来訪者たち』

初めまして。1年ほど前から事務所でお仕事させていただいている杉本と申します。

事務所には本当にいろいろな方が来られます。

いちばん多いのは、園児・卒園児のお母さんたちでしょうか。母の会の役員さんたちが順子先生にいろいろ聞きにこられたり、コピーなど、それぞれの担当の方が行ったり来たりいそがしそうにされています。園芸サークルや陶芸サークルのお母さんたちに、2階で作業されているのは紙芝居サークルのお母さんたちです。川沿いのお花や、畑の作業、おまつりでの素敵な陶芸作品や、すばらしい紙芝居は、こんなお母さんたちのおかげでできあがってるんですね。

お母さんぐまの方たちもエプロンをつけて時々のおきに來られます。おやつのおすそ分け、いつもほんとおいしいのです。あとは、ききるんの会の方、共同文庫の方もよく園長先生と打ち合わせなどしていらっしゃいます。アートガレージのお手伝いのお母さんたちもいらっしゃいます。最近では朝市、他にもいろいろな行事に大活躍です。

それから、かわいい子どもたちも事務所にやってきます。すーっと事務所に入ってきて印刷機からでてくる紙をじっとながめているぼっぼちゃん。散歩から帰ってきたら我先にと競い合うように「ただいま～」の報告に来てくれる子たち。園庭で拾ったみかんを届けに来てくれる子。1

用事があるのに、なかなか事務所に
入れずガラス戸の前でうろうろこっ
ちを伺っている恥ずかしがりやさん
もいます。うれしそうに「こま」や
「けんだま」を買いにくる子。

あとは、玄関やトイレの清掃の方、
宅配便の人、本屋さん、マンションの
管理や修繕をしてくれる業者さん、
教会の方、商店街の方、入園を希望さ
れて見学に来られる方・・・

あっ、最近では幼稚園を卒園した若
者たち・・・園長先生の力仕事を手伝っ
たり、子どもたちと必死で遊んでい
ます。

この1年仕事をさせていただきな
がら、西宮共同幼稚園・西宮共同教会
はすごくたくさんの方々の関わり
によって支えられていることを実感し
ています。

そんな中で仕事させてもらえるこ

とを感謝し、楽しみながらこれから
もやっていきたいと思っています。

(おまけ) 今、事務所に欲しいもの
・・・印刷のプロの糸田さんと考え
ていたんですが、園長先生や順子先
生の行き先表示板(広い園内も含め
て、行き先と戻り時間が分かるも
の)。みなさん、これがあれば便利だ
と思いませんか??

(杉本 知子)

誤解というのは、「物を作って儲ける」が経済の根本で、しかし「物を作らずに動かして儲ける」という経済活動もある ということの先に「だから働かないで金儲けをするということもある」という考え方が生まれてしまうことですね。「時代を読む」とか「時代の先を読む」などということがもてはやされてしまうことの後ろには、こういう誤解が絶対にあると思う。

(橋本 治)

20年以上前に、身の振り方の相談で教会にとび込んできて、そのことがあって、細々でしたがキリスト教・教会を介してのつながりが続いてきたTさんから「考える所あり、基督教とお別れしたく思います。本当に長い間、お世話になり有難うございました」という便りをいただきました。

子どもたちと出かける折に、必ずお見送りをして、お出迎えをしていただいていたOさんが亡くなられ、“お参り”に行かせてもいました。遺骨とローソク、線香は置かれていたのですが、お葬式は無宗教でした。S学会との決別を「自分も、子どもの頃に静岡の方に連れていかれたりしましたが、今は全くつながりがありません」と息子さんが教えてくれました。OさんやOさんの息子さんは、その宗教と意識的に“決別した”というより、自然にその宗教と遠くなった“決別”のように聞こえました。

で、Tさんがお別れをする西宮公

同教会のキリスト教・教会についていろいろ考えさせられています。Tさんがお別れ、決別するのは、西宮公会同教会というキリスト教会のキリスト教です。

内村鑑三たちによって日本で広められた“無教会”を主張するキリスト教もありましたが、今は彼らが生きていた時代のように盛んではありません。キリスト教会のキリスト教が主流で、大きくは二つの流れカトリックとプロテスタント諸教派に分かれていて、西宮公会同教会はプロテスタントの一教派である日本基督教団に属する教会の一つです。Tさんが“お別れする”のはそんな意味でのキリスト教です。そのキリスト教教会は、2000年前に、パレスチナで生まれ、聖書(新約聖書)に書かれるような生き方、そして殺されることになったイエスという人にその起源をもつと考えられています。それらのことが記述されている書物は“聖書”として重んじられ、今もキリスト

教・教会の礼拝で朗読されています。キリスト教・教会が、今に至るまで続いてきたのは、聖書に書かれているイエス、その“教祖”の魅力によるところが大きいのでしょうか、キリスト教の“教会”の力もずいぶん大きかったと考えられます。イエスを教祖とするキリスト教を、いつでもどこでも見える形にして示しているのがキリスト教会で、それをキリストの体と言ったりします。およそ2000年前の時代に生きて、いくつかの経緯があって処刑されたイエスは、“救い主・キリスト”と信じられるようになりました。救い主・キリストを、いつでもどこでも見える形で示してきたのがキリスト教会なのです。と言われ“信じ”られてきました。Tさんが“お別れする”キリスト教は、そんな意味でのキリスト教会であるということにもなります。

キリスト教の教会である西宮共同教会は、1930年代に西宮市甲風園の普通の家の一室で“家庭集会”として始まったと言われます。その家庭集会の主催者がK牧師で、1935年に日本メソジスト教会西宮教会、1941年に戦時下の宗教を統制する法律宗教団体法のもと、プロテスタント諸教派が合同して、日本基督教団西宮共同教会になって、今も続いています。“続く”にあたっては、あれこれ手掛かりが必要ですが、キリストの体と信じられる教会も目に見

える“建物”がなかなか重要です。建物は、維持管理にも気をつけなくてはなりません。3月14日の朝、建物である西宮共同教会で事件が発生してしまいました。3階建ての建物の階段が水浸しの“滝”になってしまったのです。調べてみたところ、屋上で雨水を集める排水溝に、事務所前のケヤキの落葉がつまって水が流れなくなつて、排水溝のすき間から大量に教会内に流れ込んで“滝”になってしまったのです。“キリストの体”も、こうなると維持管理に気を使わなくてはならない正真正銘のただの建物ということになります。これもまた、Tさんが“お別れする”キリスト教ではあるのです。

西宮共同教会は、キリスト教・教会の働きの一つとして、子どもたちのキリスト教会“教会学校”を、大切な働きの一つとして取り組んできました。毎週日曜日の朝の1時間15分のために、子どもたちが納得して過ごし、納得して帰るために、あれやこれやの準備をし、その時の短い時間で勝負をします。その子どものことについて、教祖イエスは多くを示唆している訳ではありませんが、“神の国”のことで、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのようなもの国である」と、聖書・マルコによる福音書10章14節に書かれていますから、子どもたちのキリス

ト教会・教会学校のことを大切にすることは間違っていないはず。これもまた、Tさんが“お別れする”キリスト教なのです。

建物の維持管理やそこで働く牧師の人件費のことなど、お金もそこそこかかってしまうキリスト教です。Tさんから“お別れする”といただいたお便りに、少しめげながらもなんとかめげてしまわない働きをしたいと願っています。

(菅澤 邦明)

いったりきたりくりかえす あたたかい日さむい日

いったりきたりくりかえす あ
たたかいひさむいひ～

子どもたちと歌っているこの歌のように、寒くなったり暖かくなったりを繰り返して、少しずつ春に近づいていっています。幼稚園の園庭や散歩の道中でたくさん目にすることができた梅の花。ピンク色や白、濃いピンクのものなど、同じ梅でも色が違うと印象もだいぶ違って見えます。少し散歩に出るだけであちこちで見ることができて、そのたびに春を感じ、暖かい気持ちになれるのでした。そして、つくしやたんぽぽにも出会い、つい唄いだしてしまうじ

つくしはつんつんでるもんだ～
たんぽぽたんぽぽむこうやまへとんでけ～ というわらべうた。入園し

てすぐの4月の頃からたくさん歌ってきたぼっぼ組の子どもたち、たくさんさんの“はじめて”を体験しながら過ごしてきたこの一年の中で、こんな風に自然に歌が子どもたちの口から飛び出し、楽しんで歌っている姿を見て、一年という大きさを感じています。春、夏、秋、冬と季節の移り変わりを身体いっぱい感じて、そしてまた春がやって来ようとしています。

そんな季節の移り変わりを身体で感じ、成長し続けていたものがここにもあります！！それは・・・はっさくの木。冬には黄色く色付き、今にも落ちそう～というぐらいずっしりとぶら下がっていたみかん。このみかんにも一つ一つ命があって、一

年かけて大きくなっていくのです。収穫された一年前の冬から、また新しい命が誕生して、そして少しずつ身を大きくしていき・・・緑色から黄色へと、ゆっくり甘くなっていきます。くすのき広場に行くたびにそのみかんの様子を見ていた子どもたち、おいしくなる日をずっと心待ちにしていたのでした。ポトンと落ちているみかんを拾って「おちてたよー！」とニコニコしながら持ってきてくれます。匂ってみるとみかんのいいにおい～ 幸せな顔になっているのでした。そして今年も収穫の日がやってきました。梯子に登って、高いところにあるみかんも全部収穫です。下で見ていた子どもたちは、次から次へと収穫されていくみかんをせっせと運んで机に並べていきます。大きさもいろいろで、大きいのがあったり少し小さめのがあったり。でもどれもとても鮮やかな黄色で、ずらりと並べられたみかんはとても迫力がありました。今年は約200個の収穫でした。取れたてのみかんは、もちろんその場でみんなですべて残さずたっぷり楽しむことができた幼稚園のみかんです。また

来年、おいしいみかんになるために、もう準備が始まっているようです。

年長組の子どもたちとの時間もいっぱいに楽しむことができました。ぽっぼさん、さんぼ・らったさんの憧れの存在、いつもかっこよくて、年長さんみたいになりたい～！という思いを抱いてたくさん関わり過ごしてきた毎日。年長さんが歌うたくさんの歌、一人一人が一生懸命で、そんな素敵な歌声がいつも私の心の奥まで響いて、暖かい気持ちにさせてくれました。別れと出会いの時がやってきます。" 別れることは悲しいことじゃない"。新沢としひこさんの歌に出会って、そんな風を感じる事ができました。たくさんの素晴らしい歌に囲まれて、子どもたちとの毎日を過ごすことができましたこと、心より感謝いたしました。そして、今年もたくさんの方々が心を寄せて下さり、子どもたちとの生活をさらに豊かなものにして下さったことを感謝いたします。

はるのかげがふいてきたら～

目の前にやって来ている春を感じながら、この歌を歌っている子どもたちです。

(近山 佳奈)

すずや便り

「おくりびと」がアカデミー賞を受賞しましたね。この9年の間に主人の母、私の母、祖母との別れがありました。両母のときは気が動転しており周りを見る余裕はなかったのですが、祖母が亡くなった時は、葬儀社の人から祖母の着替えをしてくれているところに到着したものですから、少し離れたところから一人でその光景を眺めていました。その時のテキパキとしているけど、丁寧な動きがとても印象的でした。周りに居た親戚も祖母のお気に入りの着物を出してみたり、そこから故人を偲ぶ話になっていったりと気持ちを切り替えるきっかけになったようで、亡くなった人をおくるための手順は必要なものなんだな、と感じたのを覚えています。

先日しばらくぶりの再会第2弾（18年、13年、8年ぶり）、OL時代の先輩と女性4人で食事をしたのですが、その中にN.Y.の9.11同時多発テロの時に世界貿易センタービルで働いていた人がいました。出勤時刻が遅かったため、通勤途中でテロを知り（当時は「何かあったらしい、逃げろ」ということしかわからなかったそうです）逃げる途中で2機目の衝突、そしてビルの崩落があったそうです。一緒に働いたこともある人があのテロで亡くなったこともあり、

「今こうして食事ができるってありがたいことだよ」という話になりました。頭ではわかっているけど、なかなか口には出さないそんな思いを自然と話題にできたひと時でした。

私の父は満州から引き揚げてきた経験を持っています。実家で作る餃子は皮から手作りで満州にいた頃おばあちゃんが覚えたんだ、とよく聞かされてきました。昨年長女の社会の宿題で「戦争体験を聞く」というものがあり、気軽に「おじいちゃんに聞いてみたら」と言ったところ「口で言うのは大変だから」とFAXが送られてきました。読んで驚きました。今まで聞いたこともない引き揚げの生々しい話。よくぞ、無事に戻ってこられたものです。もしかしたら私はこの世にいなかったのかもしれないのだと。孫にだから、ずいぶん時間がたったからそんな話もできたのかもしれない。昨夜は「おくりびと」のニュースを見つつ、餃子の皮をこねながらそんな様々なことに思いを巡らせていました。

* 今回は、テスト前なのでイラストはお休みします 千優

（富家 香麻里）

みかん便り•@

お久しぶり、みかん便りです。

前回のみかん便りを友達に読まれて、だいぶ馬鹿にされました…。そいつに「文才なさすぎる」と言われたんですが、そんなことは気にせず書き続けます(笑)

最近あった出来事としましては、バイトが決まりました 全国的に有名な、ラーメン屋「一風堂」です 大学1回生のうちはかなり忙しく、週末は京都に帰ることが多かったのでバイトが見つからなかったんですよ(泣)せやし、日雇いで学校の草むしりとかでなんとかやりくりしてました。今年は6月以降はもう帰らなくても良くなったので、「それならちゃんとバイトをしてみよう!!」ということで、最近はバイト探しで大変。。愛媛の時給はホンマに安い。。時給640円とかが普通にある…ホンマ京都・大阪・兵庫の友達がうらやましいです。でもまあ、そんなこと言ってもどおにもならんのでやっと決まったバイト、しっかり頑張ります!

飲食店などの接客業を選んだのも色々と訳があったりもします。たいしたことじゃないですが(笑)今村組を通して、全国のイベントにゲストダンサーとして出させてもらっているんですが、その度いろんな人と接する機会ができました。

8 初めはただ笑顔で「お願いします」

「ありがとうございました」と言うことしかなかったんですが、時間が経つにつれお偉いさんと話す機会も出てきました。

いつもいっぱいいいっぱいで、失礼無く話すのはどうすればいいのか、羽目はずすとときもどの程度までなら許されるのか、たくさんのことを悩みながら過ごしてきました。「そんなん一般常識でなんとかなるやる」と思う人もいると思うけど、やっぱりこういうのは思っているより難しいです。喋るのが得意やって思ってた自分も、話術の難しさに打ちのめされました。本当に喋るのが得意な人って、ちゃんとマナーが体に染み込んでる人なんだと思います。

ってな理由で、もっと人と接するマナーを学びたいです。接客業って色んな経験ができると思うんで、今から楽しみなんです。それに飲食店はまかないがもらえるんで一人暮らしにはめっちゃありがたいです。ちゃんと毎日料理はしてるんですが、やっぱ面倒くさくなってカップ麺に走ることも多いんで、息抜きとしてまかないで済ませるのもいいなあって。

最近学びたいなあって思うものが多いです。多すぎてどれから手をつけるか迷ってます。贅沢な悩みですね。

まずは2回生からの選択で、法律コースか政治経済コースを選ぶかを決めたいと思います。

ほな次は2回生になってからのみか

ん便りです。

新学期、今から楽しみやぁほな！

(河村 高志)

グアテマラ便り•@

12月から2ヶ月、日本へ戻っていました。母が腕を骨折したので、年末の帰国予定を早めたのです。約1年ぶりの日本、着いた当日は意外と暖かかったけれど、やはり冬の寒さは身にしみました。。。

いつもは母が用意するおせちですが、私が受け持つことになりました。実は一度自分でやってみたかったので、内心ウキウキ。ビギナーズラックともいえる、できばえ。日本食の良さをしみじみ感じます。

今日はこちらの市場の様子をお知らせします。我が家から5分ほどのところに市場があります。近隣の村々から、民族衣装を着たおばさん、おばあさんたちが、大きな野菜のかごを抱えて売りに来ます。ここでは、リブラ、約450g(ポンドと同じです)単位で売られます。私は一人なので、うっかり1リブラ買うと、何個か傷ませてしまうので、昨日の売れ残りか、小ぶりで商品価値の低いものがビニールに入れられたものを買います。この日は小ぶりのにんじんが12本でQ2、約30円でした。

普通にトマトなどを1リブラ買ったとしても40~50円くらいなのですが、日本のような季節がないとはいえ、いくらかは時季があるようです。そろそろマンゴーが出始めました。小ぶりですが、本当においしいです。青いうちは、塩をつけて食べます。でも、やっぱり熟れているものがおいしいですね。マンゴーは6月ごろには姿を消してしまうのです。。。。

バナナもこの国を支える農作物の一つです。1年中あります。同種のプラタノは加熱用の大きなバナナで、揚げたり焼いたりして、サワークリームのようなものをつけていただきます。これは、ここの朝ごはんの定番メニューです。胃に良いと言われています。

食べ物の話だと尽きなくなってしまうですね。あと、安くってありがたいのはお花です。いつも買うのは、カラー。12本でQ5、80円くらいです。カラーも日本では高価な花なので、初めはびっくりしました。バラだって12本で300円くらいだと思うので、買えばいいんで

すけどね。。夕方、市場の終わりごろに行くと、Ｑ１０、１５０円くらいで売ってくれることも・・・何でも一応値切ってみて、お買い物しています。周りには「関西人！」と言われちゃいますけどね。

次回は、できればお料理のお話にしようと思っています。

（横山 佳代子）

大切な贈り物・津門川 7 8

“ 山地大 in 津門川

教会学校から

《2月の活動報告》

2月1日(日)

ゲーム遊び

2月7日(土)

もちつき

2月8日(日)

冬の遊び&お雑煮を食べる

2月15日(日)

幼稚園の子どもたちと“3000個”
積み木大会

2月22日(日)

のびーるのお父さんに遊んでもらう

《3月の活動予定》

3月1日(日)

手作り肉まんを食べる

3月8日(日)

桂米八さんの曲独楽・南京玉すだれ！

落語家の桂米八さんをおよびして、幼稚園の園舎で曲独楽・南京たますだれを見せてもらいました。幼稚園の子どもも、卒園した小学生たちもコマ回しが大好きです。びっくりするような技にみんなで驚き、楽しい時間を過ごしました。

3月15日(日)

幼稚園の子どもたちと一緒にわらべうた
で遊ぶ

3月22日(日)

教会学校・入学式

3月29日(日)

ちょうちょ作り

2009年3月 あんなこと こんなこと...

教会

- ・ 3月 1日(日) 早天祈祷会
- ・ 3月 2日(月) 女性の会
- ・ 3月 4日(水)、18日(水) 聖書研究祈祷会
- ・ 3月 8日(日) 幹事会
- ・ 3月 10日(火) ゆっくりと聖書を読んでみませんか
- ・ 3月 18日(水) 西宮公会堂カレンダー打ち合わせ、新担当者顔合わせ
- ・ 3月 11日(水)、25日(水) 読書会『子ども学序説』(浜田寿美男、岩波書店)を読んでいます。

幼稚園

- ・ 2月 27日(金) ~ 3月1日(日) 年長組作品展
- ・ 3月 4日(木) 卒園登山(5日が予備日)
- ・ 3月 7日(土)、21日(土) 共同文庫
- ・ 3月 16日(月) 卒園式
- ・ 3月 21日(土) 3学期終了

にしきた商店街

- ・ 3月 1日(日) 津門川川掃除
- ・ 3月 2日(月) 西北街づくり協議会
- ・ 3月 3日(火) 西北ひと・まち・あさ市
- ・ 3月 6日(火) にしきた商店街役員会
- ・ 3月 10日(火) 西北活性化協議会
- ・ 3月 18日(水) にしきた街舞台実行委員会

アートガレージ

- ・ 火~金曜日: 10時~17時 土曜日: 15時~17時 開室日
- ・ 3月 10日(火) アートガレージ運営委員会
- ・ 3月 10日(火) ~ 13日(金) ききるんの会活動日
- ・ 3月 17日(火) 野菜市

「生と死を考える」講座第6回「集まったみんなで生と死を問いあう」

ききるんの会OB活動日

関西神学塾

- ・ 3月 6日(金) 午後7時~9時 使徒行伝を読んでみよう(41) 講師: 桑原重夫
- ・ 3月 23日(金) 午後7時~9時 ヨブ記釈義(17) 講師: 勝村弘也
- ・ 3月 26日(木) 午後7時~9時 「岩井健作」の宣教学(58) 講師: 岩井健作
- ・ 3月 27日(金) 午後7時~9時 マルコ福音書注解(中)(57) 講師: 田川建三

まいのなんでも案内

一月は行く、二月は逃げる、三月は去る。毎年この季節になると、その意味をつくづく思い知らされます。というわけで、私が大学生でいられるのも残り僅かとなりました。4年にわたる勝手気ままな京都生活にも別れを告げ、来月の今頃は東京で働いていることでしょう。と、感傷に浸る暇は余りなく、これまでの人生で最高級に忙しい日々を過ごしています。友達との卒業旅行（北海道は寒かったです）、サークルや研究室の追い出しコンパ、京都に残ったり地元に戻ったりする友達との時間・・・を、ひたすら予定として組んでいたら、引越しの準備の時間がほぼゼロになりまして。私の大好きな睡眠時間を削って、必死で荷造りをしております。うう。

そんな日々の中でも特筆すべきは、人生初イギリス旅行。母と2人で6日間、ロンドンを満喫してきました。幼い頃からナルニア国物語やサトクリフなどのイギリス児童文学に慣れ親しみ、少し年齢が上がってからは、家にあったアガサ・クリスティ作品をひたすら読みつくし、朝から紅茶が基本、母の手作りスコーンでアフタヌーンティを楽しむのが何より幸せであり、大学でも迷わず西洋史を専攻、古代ローマ帝国時代のイギリ

スについてある程度勉強していた私にとって、イギリスは憧れと懐かしさを併せ持った存在でした。勝手に心の故郷と呼んでいたようないなかったような。いえ、日本も大好きなんですけど。この辺はちょっと掘り下げると難しい話になってくるので敢えて触れません。

さて、そんなイギリス旅行、円高の恩恵に与って、春からの洋服（オフィスカジュアルというやつですね）を仕入れようと、トランクの半分を空けていったのですが、そのスペースは全て紅茶とビスケットで埋められて帰ってきました。花より団子、服より紅茶、です。現地では何のツアーも申し込まなかったのも、ミュージカルを見たり、ナショナルギャラリーや大英博物館でアドレナリンを大放出ししたり、クリスティの『パートラム・ホテルにて』の舞台になったと言われるブラウンズホテルで、本格的なアフタヌーンティと洒落込んだり、ウェストミンスター寺院で歴代の英国王たちのお墓参りをしたり、思うがままに楽しんできました。ロンドンには首都だけあって、随分と都会的で幾分東京に似た印象も受けましたが（地下鉄の張り巡らし方とかね）、その一方で、歴史的な建物や寺院や美術館も多く、京都とはまた別の形

で、過去と現代が融合している、と感じました。あと、公園が多いのは新鮮でした。そりゃメアリー・ポピンズのように、毎日公園に散歩に行っ、何かしら事件が起こることにもなりますよね。公園ってというか広場ですもの。ひたすら広くて芝生と池があって、銅像なんかもよく建ってる。

泊まったホテルがパディントン駅に近かったので、今回の旅の個人的なテーマはマイケル・ボンド作『くまのパディントン』でした。実はまだ新刊が出ているパディントンシリーズ、去年で誕生50周年だったとか。「暗黒の地ペルー」から「密航者」としてやってきた、クマのパディントンは、ちょうどパディントン駅でブラウンさん一家に拾われ、ロンドンに住むことになります。しっかりしているところはありますし礼儀も正しいのですが、何しろクマです。彼の行く先々には何かしら事件が起こり、それでもその度に何とかしてしまうのがパディントン。傍にいたら非常に面倒で厄介だろうけれど、でも本人がいたって真面目なのは全く憎めないし、むしろ愛らしい。そんなクマのパディントンの銅像は、パディントン駅にしっかりと設置されていました。イギリスといえば、ピーターラビットはともかく、プーさんが有名だろうと思っていたのですが、ハロズ(百貨店)のおもちゃ売り場でも、2大トップはピーターラビット

とパディントン。驚くと同時に、そんなにもパディントンが愛されていることに、何だか嬉しくなりました。沢山読み返した記憶はないのに、エピソードの一つ一つは覚えていて、今改めて読み返してもクスッと笑える、そんなパディントンとの再会を果たせた旅でした。

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

キリスト教の子どもの教会・教会学校のことに
はずいぶん力を入れてきました。日曜日の朝9時
～10時15分の短い時間ですが、子どもたちが
納得して過ごし、納得して帰って行くだけの内容
を、その時間のために苦心して準備します。たと
えば、教会学校の礼拝で歌う歌も、ただ歌いや
すいだけではなく、子どもたちが生きている時代の
空気が歌い込まれた歌を、子どもたちと集まった
スタッフが思いを寄せあいながら歌うことを大切
にしています。現在は、少ないスタッフと応援す
る人たちの力で、子どもたちの勢いに何とか向か
い合っていますが、切に願っているのは、スタッ
フの充実です。日曜日の朝、必ずそこに顔を出
すだけでなく、準備会（教師会）にも顔を出すとい
うのは、何かを削ることになります。そうして削
る決意が、日曜日ごとに子どもたちと過ごすこと
で、そして5年10年後の子どもたちとの出会い
の時になって報われるのが、教会学校の働きで
す。

(K)

こぶしの木が今ちょうど花開いています。今
年、ぼっぼぐみの子どもたちとずっと見守ってき
た一本のこぶしの木があります。つぼみがだんだ
ん膨らむ様子も、そしてつぼみが割れてくる様子
も。花が開くとつぼみの殻？は下に落ちます。そ
れにはふわふわの毛が生えていて、触ると気持ち
よく、子どもたちは宝物を見つけたようにとびき
りの笑顔で大事そうにズボンのポケットへしまっ
ていました。私にはそんなみんなの表情が宝物で
す。暖かな春の日差しのもとでとてもいい時間を
過ごしているんだと嬉しくなりました。

(I)

空気が暖かく感じられる日が多くなってきま
した。子どもたちと梅林へ行ったり、畑のチュー
リップの芽がぐんぐん成長しているのを見つけた
り... 春の訪れを少しずつ感じています。

先日は、武庫川の河川敷に菜の花を見に出かけ、
ますます春が待ち遠しくなりました。

(Y)

今まで、年長の子もたちとたくさんの歌を
うたってきました。先日、40分近くいろんな歌
をうたうひとときがありました。季節を問わず
様々な歌が子どもたちからあがり、「夏」の歌や
「クリスマスの12日」(季節外れですが(笑))な
どを楽しみました。子どもたちと一緒にうたうこ
とが大好きです。うたっている姿を見ているのも
好き！そして、子どもたちがうたい、その伴奏を
するのも幸せです。こんなにたくさんの歌を子
どもたちとうたえる毎日って本当に幸せだなあ
と改めて感じています。

(N)

天童荒太にはまってしまった！「永遠の仔」と
かのテレビドラマの頃は特に意識もしなかつたけ
れど、直木賞受賞作となった「悼む人」に心奪わ
れた。人物や作品を紹介した文章に、人の生活の
下支えになるような物語を書いていきたいとあっ
た。自分の口から出るものが活字となったもの
が、人の生活を底で支えられるものであるとした
ら嬉しいことです。人の死、実にいろいろある、
年齢、職場、その人とのつながり～、「おくる」こ
とを仕事とすることも多いけれど、「悼む」この
ことをもっと深くとらえたい。今はただそう願っ
ています。

(J)